

きほく
鬼北町

議会だより



目次

- P 2 発刊にあたって
- P 3 鬼北町議会体制
- P 4 ~ 議員の窓
- P15 常任委員会合同視察調査
- P16 町民の声
- P17 P T A 連合会との懇談会
- P18 ~ 町有施設視察研修
- P20 ~ 議会活動報告
- P22 編集後記ほか

第3号
令和4年3月

発刊にあたって

鬼北町議会議長 芝 照雄



3回目の「議会だより」発刊によ
せて、町民の皆様にご挨拶を申し上
げます。

さて、昨年4月に任期満了に伴う
鬼北町議会議員選挙が告示され、5
月の臨時議会で微力ではありますが
私が議長の要職を担うことになり、
早くも一年が経たとうとしています。

この一年間を振り返りますと、昨
年同様に新型コロナウイルスに悩ま
され、自粛を余儀なくされる中、コ
ロナワクチンの接種も進み収束に向
かっていることと思いますが、変異
株の脅威も拭いきれません。行動・
活動が制限される中、各議員がそれ
ぞれ考え、各地域での活動を、町民
の皆さんにお伝えしたい事を主に広
報を作成いたしました。

まだまだ未熟な点も有りますが、
「町民に寄り添い・温かみのある」
広報を目指して取り組んでまいりま
すので、ご理解とご支援をお願いい
たします。

最後になりましたが、新型コロナ
のいち早い収束と、「議会だより」
発刊に携わっていただいた多くの皆
様に心から感謝申し上げます、発刊にあ
たっての挨拶とさせていただきますま
す。



鬼北町議会体制

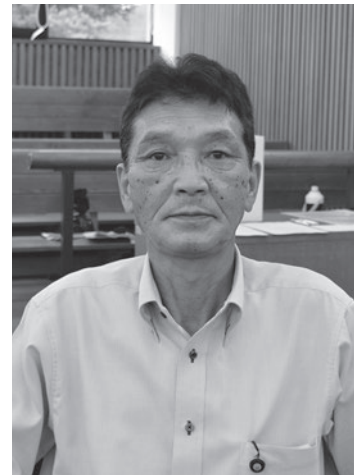
令和3年度の鬼北町議会の体制は次のとおりです。



芝 照雄 議長



〈議会の様子〉



赤松 俊二 副議長

委員会

◎は委員長、○は副委員長

総務産業建設 常任委員会	厚生文教 常任委員会	予算常任委員会		議会運営 委員会	広報委員会
◎松下 純次	◎高橋 聖子	◎山本 博士	末廣 啓	◎松浦 司	◎山本 博士
○中山 定則	○山本 博士	○福原 良夫	松下 純次	○福原 良夫	○高橋 聖子
坂本 一仁	福原 良夫	坂本 一仁	程内 覺	高橋 聖子	坂本 一仁
兵頭 稔	程内 覺	兵頭 稔	松浦 司	山本 博士	赤松 俊二
末廣 啓	松浦 司	高橋 聖子	赤松 俊二	松下 純次	
赤松 俊二	芝 照雄	中山 定則	芝 照雄	程内 覺	



〈現地調査〉

← 近永駅改築

北宇和高校寮
建築予定地 →



議員の窓

地域をささえる力



坂本 一仁

皆さんこんにちは、新人議員の坂本一仁です。

今日は過疎化が懸念される中で、今後の鬼北町のあり方を私なりにお話ししたいと思います。

現在鬼北町の人口は9741人（12月末現在）です。年々人口が減少し、高齢者の割合が高く、出生率が低下しているのが現状です。日本全体の人口が減少しているので致し方ないところ

ではありますが、それでも鬼北町として考えなければならぬのは若者の流出です。

暮らしの中で大事な仕事ですが、働ける場所がない、賃金が安いなどの問題があります。そういった中でも鬼北町のある地区で、地域活性化集団の会員2名が十数年指導者としてスポーツ少年団に携わっていたそうです。スポーツの良さを教えるのはもちろんのこと、田舎ならではの良さ、そして「現在みんなが暮らしていけるのはおじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんのおかげなんだよ。できるならおじいちゃんやおばあちゃんに会いに行つてあげてね。それがすごく嬉しいものなんだよ。」と伝えていたそうです。そういうことがあつてか、その内一人の指導者が消防士ということもあり憧れがあつたのかもしれませんが、教える子の内、消防士が3人、町職員が3人など他にもたくさんの子が地元に戻つて、仕事の傍らその地域活性化集団に参加し地域を支えてくれているようです。そういった地道な活動が絆や繋がりを深め、地域力を上げていくんでしょ

うね。現在そのスポーツ少年団は少子化の影響もあつて廃部になってしまいましたが、これからも地域活性化集団の活動を通じて、鬼北町長が掲げる「鬼北愛」を伝えたいと話してくれました。



〈いきいきクラブの方々と竹の子学級の餅つき〉

そして高齢者ですが、鬼北町には現在元気で活力のある方がたくさんおられ、地域の中で活躍中です。私の住んでいる好藤地区には、いきいきクラブ、ピーチパイ、子ども達の見守り隊、好藤地区放課後子供教室など様々な分野でご尽力されている団体があります。貴重な時間を割いていただき、地域を想う活動に感謝の気持ちでいっぱいです。こういった活動も公民館があつて

のことであり、必要不可欠な施設だと感じております。これからも公民館が中心となり、子どもから高齢者まで笑顔で暮らしやすい地域づくりを推進していただけたら幸いです。

最後になりましたが、今後とも町民の皆様が議会に対して関心を持っていただき、皆様のご意見を町政に反映できるように精一杯精進する所存です。

合同視察調査に参加して



兵頭 稔

今回の視察の目的は、再生可能エネルギーの利用促進の観点から、森林資源を活用したバイオマス発電所及び木質ペレット製造所視察、近永駅整備計画に合わせて、予土線沿線の調査及び

議会のICT化（タブレット端末導入）についての調査でした。

まず初めに、予土線沿線の松丸駅にはぼっぽ温泉、虹の森公園おさかな館があり、土佐昭和駅から歩いて10分の所には、第一三島橋、第二三島橋と2つの沈下橋があります。第一三島橋は鉄道橋と並行して架かっており、撮り鉄マニアには欠かせない場所となっています。打井川駅から数キロ山に入った（バスで送迎あり）所にある海洋堂のかっぱ館やホビー館には、年間数万人の観光客が訪れると聞いています。終点窪川駅には37番札所岩本寺、高知県の名物芋けんぴの名店もあります。

さて、鬼北町の駅には何があるのかすぐには思い付きません。できれば、道の駅三角ぼょうしの傍に駅があればと考えています。

JR四国、地元住民、各施設の関係者と協力して、予土線の存続及び誘客ができるよう努めたいと思います。

次に訪れたのが木質バイオマス発電所です。到着してすぐに永野取締役社長自ら、木質バイオマス発電事業と木質ペレット生産事業について説明があ

りました。

発電の定格出力は6500kw。年間の計画発電量は4500万kwhとなり、12000世帯分の電力量であるとの説明をいただき、実際に行っている作業手順等を現場で細かく教えてくださいました。鬼北町でもこの事業を過疎地域持続的発展計画の一つとして考えていますが、起業するとなると、立地条件、その他もろもろ状況がかなり難しいと感じました。

最後は、平成30年9月からタブレット導入と紙資料を併用して試験運用を開始し、その後、令和元年6月から本格使用されている愛南町を視察しまし



〈グリーンエネルギー研究所にて〉

た。タブレット端末での会議において、問題が起きたことはないか尋ねたところ、導入前には色々心配していたが、何事もなくスムーズに移行できたそう
で、鬼北町も早く導入するよう勧められました。

タブレットはすでに小中学校においても導入される時代になってきたので、議会でも先行して取り入れていきたい
と思います。

鬼北町防災訓練に参加して



高橋 聖子

防災用語に「自助・共助・公助」という言葉があります。「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身を守ることです。（この中には家族も

含まれます）「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいいます。そして、県・市町など自治体、消防・警察・自衛隊といった公的機関による救助、援助が「公助」です。

この2年余りにわたるコロナ禍で置き去りにされてきた「共助」が少しずつもどって来た令和3年12月5日『鬼北町防災訓練』が実施されました。8時からのシェイクアウト訓練（町内全域）に続き三島地区において安否確認訓練が行われました。そして三島小学校での避難所運営訓練に私も参加しました。コロナ禍の避難を想定した避難所設置・運営訓練とし、20人ずつ3グループに別れローテーションしながら行いました。

Aブースでは受付・感染防止等訓練（発熱のある者や濃厚接触者が発生した場合の対応）をソーシャルディスタンスをとりながら行いました。

Bブースでは避難所レイアウト、段ボールベッド等の設営・収納訓練を実際に体験しました。

Cブースの災害用トイレ設営・管理

訓練では災害用トイレの使用方法、汚物の処理方法を体験しました。

どのグループも本番さながらの緊張感をもった訓練でした。

参加者からは、「この防災用品は普段どこに保管されているのか」「何日分のストックがあるのか」等、自分たちが主になって避難所を運営していく上で気になることを質問していました。

鬼北町が誇れることの一つに「住民力」があると思います。今後も各地区にある自主防災組織・防災士を中心に「共助」の力で防災意識を高めて行きたいと思われました。



〈避難所レイアウト訓練〉

鬼北町立図書館を 建設する構想について



中山 定則

親しい友人から、「調べ物をしたいが鬼北町には図書館がないね。」と言われて、図書館について6月定例会で一般質問しました。

問 住み続けたい魅力のある鬼北町を実現するため、近永アルコール工場跡地未利用地に鬼北町立図書館を建設する構想を練る考えはないか。

答 現在、児童数の減少などから、町内保育所の統合・再編を計画しており、保育所統合後の新たな保育所を中心として、子育て支援施設、公園、住民交流施設、商業施設等を盛り込

んだ複合施設を建設したいと考えている。計画している住民交流施設の中に、小規模な図書スペースを設置するなどの検討もしているところであり、図書館建設については予定していない。

再質問 町民は、図書館利用を通じて学習し、情報を入手し、文化的な生活を営むことができます。町民にとってなくてはならない施設である図書館を建設する計画を検討できないか。

答 各地区の公民館及び中央公民館に図書室を設置しており、現行の図書室を予算内で整備して利用促進を図っていく。

図書館建設の予定はないとの答弁でしたが、「公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民全ての自己教育に資するとともに、住民が情報を入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場であると言われていきます。」今後も機会をとらえて、図書館のある町を目指して声を上げていきたいと思っております。

○「ゆすはら雲の上の図書館」に行つて来ました！



〈ゆすはら雲の上の図書館〉
建物の設計は隈研吾氏

「梶原町に良い図書館があるよ」と言われて行って来ました。

図書館を見て一風変わった外観に驚き、中に入るとグランドピアノが置いてあること、内装の構造木組みにびっくりしました。



館内は、1階に交流広場・情報交流コーナー・えほんコーナー、子育て相談室・カフェコーナー・多目的ルーム、図書館スタッフルームと会議室2つの隣に生涯学習課・教育長室があり、2階は、一般図書フロア・井戸端エリア・コミュニケーションラウンジ・ライブラリー・閲覧コーナーとなっていていました。図書館は、色々なジャンルの本があるところというイメージと全く違うこの図書館に感激しました。鬼北町にもこんな図書館ができないものかと思いを巡らしながら帰途につきました。

鬼北農業の明日



末廣 啓

私が幼少だった頃の昭和30年代の稲

作農業は、苗立てから田植え、稲刈り等、ほとんどが手作業だったように記憶しています。田植えや稲刈りでは、隣近所同士の「イイレ」（イイモドシ）と言われた田舎独特の仕組みがありました。それは労働力の交換であり、そこには助け合いの精神が溢れ、和気あいあいとした笑顔のコミュニケーションの場でもあったように思います。

その後、徐々に農業機械の導入が進み、耕地の基盤整備等も行われ、現在では大型機械を駆使しての稲作農業に変わりつつあります。

しかしながら、農業を主な生業とする人は、この5年間で2割以上減少し、約136万人となり、しかも、この内65歳以上が約70%と高齢化が著しく、若い世代の担い手が不足している状況です。

そのため、12月定例会で「鬼北農業の担い手」について一般質問し、認定農業者数や支援策、農業研修制度の現状等について行政側の考えを問いました。詳細は広報等でご確認ください。

やはりこれからは「もうかる農業」を念頭に置いて、作った物をどのよう

に販売するのか、どのようにしたら売れるのかを考えることが大切だと感じます。いくら高品質なものを作っても売れなければ採算はとれません。労働負担に見合う利益が得られ、やりがいを感じさせる、担い手の意欲が高まる農業施策が必要ではないかと考えます。もうかる農業が実現すれば、新規就農者や親元就農者もおのずと増え、耕作放棄地も少なくなるでしょう。農業者、行政、関係機関が連携して、売れる方策を考えていくことが必要ではないでしょうか。



〈鬼北町農業公社にて農業用小型ヘリコプターの説明を受ける〉

稲作農家に限らず、野菜農家においても特徴や個性を活かし、工夫することで持続性も維持できるのではと思います。

これからも鬼北町の農業の向上・発展のために寄与していく所存ですので、ご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

鬼あかり



山本 博士

今回の議会だよりは、鬼北町を盛り上げようと頑張っておられる田中さんをご紹介します。

田中さんは、マスコミなどでも取り上げられご存知の方も多いかと思いますが、7年前より鬼灯（ホオズキ）を

栽培され、一緒に取り組んできた仲間も減る中、愛媛県の農業指導員の方々や鬼北町農業公社にご協力をいただき、鬼北町の鬼のつく名産品、特産品を目指し奮闘されています。



〈農業公社ハウスで作業中の田中さん〉

食用鬼灯の

栽培に取り組んで

オグリファーム 田中 明美

本業は建築設計ですが、ホオズキ栽培と家庭菜園にのめり込んでいます。8年ほど前の秋だったと思いますが、

食べられるホオズキがあることをテレビの旅番組で知りました。

タレントが東北地方でホオズキを食べ、「美味しい」、「美味しい」を連発していました。昭和生まれの私たちは、ホオズキで笛を作って遊んだ記憶がありますが、どう考えても、苦くておいしいとは思えない味でした。美味しい食用ホオズキを是非食べてみたい。

翌年の春、食用ホオズキの苗を見つけて栽培してみることになりました。東北地方の番組だったので、夏の暑さが厳しい鬼北町で栽培できるのかしらとは思いましたが、まず、3種類6本をプランターで育ててみました。4本は何とか収穫することができ、味もそこそこに美味しく、南国フルーツのような不思議な味でした。残り2本は収穫までいかに霜にやられてしまいました。

その次の年に、枯れたと思っていた株から芽が出て大株になり、ミカンのような味のホオズキが収穫できました。美味しく納得し、これでホオズキの味にはまっせました。それが、現在栽培中の鬼あかりの品種（オレン

ジチェリー)です。今度は種を取り寄せて栽培を始めました。意外と簡単に栽培できて美味しいので色々作ってみました。オレンジチェリーが見た目、味ともにいいように思いました。

そのホオズキを食べていると、主人が、「ホオズキを漢字でどう書くか知ってるか、鬼灯と書くんやで・・・」その時まで鬼に灯でホオズキと読むことを知りませんでした。漢字で書いたことがない・・・。ちょうどその頃、鬼北町発掘隊のメンバーになっていましたので、何か町おこしにつながるものはないものか、と探していました。早速メンバーに味見してもらったところ、「面白い、これで鬼北町に灯(あかり)を灯そう」と話がまとまりました。

まずは町長にプレゼンするために、発掘隊の上甲隊長と一緒に伺いし、「面白い、応援する」とのお言葉をいただきました。

平成27年、森の三角ぼうしで「鬼灯まつり」として試食会(生産者は私のみ)を開催し、同年8月には生産者を募り、合名会社オグリファムを立ち上げました。平成28年、南予いやし博の一環で「第

2回鬼灯まつり」、平成29年、台風の中で「第3回鬼灯まつり」、イベントはそれなりに反響を得ましたが、生産がうまくいかない。30本程の栽培では出なかつたオオタバコガの虫害に悩まされ、台風によられ、家庭菜園程度では起きなかつた問題の繰り返しに、3年で会社を畳むことになりました。



〈ホオズキの花と実〉

その後、愛媛県の農業指導員福田氏のご指導を受けながら、鬼北町農業公社と一緒にガラスハウスで栽培を始めました。

一年目、試験栽培程度の本数でしたが、ハダニ、温室コナジラミにやられてしまいほとんど収穫できませんでした。

二年目、7月に植え付けしたため、徒長枝と、コナジラミ、ハダニにやられてしまい、加工品を量産してしまいました。その年の3月に農業指導員の福田氏と大阪に販売促進に行き、梅田駅裏のフレンチレストラン「BAZZ」等で良い返事をいただいていたので。

三年目、県の農業指導員薬師寺氏、鬼北町農業公社の小野さんのご協力で生産の目途がたち、味もよく糖度13超えのものもできるようになりました。しかし、コロナの影響で、販売先は激減しましたが、それでも東京のレストラン「カンラサンス」や神戸の「蘇州園」他数店からご注文いただきました。

四年目、農業公社のガラスハウスで、今年こそはと奮闘栽培中です。

立ち上げ当初から一緒に取り組んで

きた仲間も減りはしましたが、天候不順、鳥獣被害、虫害にainaながらも栽培に取り組んでもらっています。しかし、どうしてもB級品ができてしまうので、加工品をつくることでどうにか消費してはいますが、コスト他諸々思案中です。

愛媛県、鬼北町、農業公社の皆様にかけていただき、生産者仲間の協力を得て、生産体制の確立と品質の向上を目指し、鬼北町の名産品に成長してくれることを願いつつ、努力を続けていきます。

骨髄移植について



福原 良夫

今回は、旭川荘南愛媛病院の岡部院

長に骨髄移植について伺いました。白血病患者の治療に骨髄移植があります。兄弟間以外に白血球の型が一致する確率は低く、骨髄バンクが必要であり、今年で発足して30年になりました。

患者さんに元気になってほしいという想いで、骨髄バンクの早期実現を目指していた活動が実を結び、1991年12月に公的骨髄バンクである日本骨髄バンクが発足、1993年1月には日本骨髄バンクを通じた初の骨髄移植が行われました。

2021年4月現在、日本骨髄バンクの登録者数は53万人、移植件数は2万5千件を超える実績となりました。また、さい帯血バンクでの移植件数も2万件に達しましたが、それでも、移植を受けられる方は6割にすぎないそうです。

骨髄バンクに登録すると白血球の型が一致した患者がいたときに事務局から連絡があり、血液検査などで問題がなければ最終同意のもと移植が行われます。それには親の同意が必要であり、最終同意の際にはコーディネーター医師が同席します。南予地区では、旭川

荘南愛媛病院の岡部院長が担当しておられます。

なぜ骨髄バンクかといいますと、私の21歳になります孫がドナー登録をしていたみたいです。令和3年12月21日に骨髄の採取が行われ、献血と比べると3日程度の入院が必要になりますが、少し痛みはあるものの「大丈夫」との連絡がありました。本人も患者さんを救えたという満足感があるのではないのでしょうか。

少しでも骨髄バンクのことを知ってもらえればという想いで書かせていただきました。登録の方法等、詳しい情報は「骨髄バンク」を検索してください。多くの方が登録されることを願っています。



2回の木質バイオバス 発電所の視察研修を終えて



程内 覺

当町で2000kwの木質バイオマス発電所の建設を計画していることもあり、平成30年12月には、常任委員会合同行政視察で、大分県日田市にある(株)グリーン発電大分天瀬発電所へ出向き、また、令和3年11月11日にも高知県宿毛市にある(株)グリーンエネルギー研究所へ現地視察に行きました。ともに木質バイオマス発電の詳しいお話を聞かせていただき、大変実のある研修となりました。

グリーン発電大分では、地域社会に貢献する資源循環型発電を目指し、地

域林業者と連携し発電規模約5700kw(約10000世帯分)、燃料使用量約6万トン(木質チップ等)の規模で運転しているとのことでした。

宿毛市にあるグリーンエネルギー研究所では、永野社長の丁寧な説明を受け、活発な質疑応答ができ理解も深まりました。

出力約6500kw(約12000世帯分)、木材の燃料使用量約9万5000トンの規模で運転し、炉内を温める時から石油、化石燃料は一切使用しておらず、それを重視しているとのことでした。

燃料となる木材について、根曲がり材や間伐材、林地残材といった山林未利用材はこれまでその多くが山林に放置されてきましたが、これらを林業関係者とともに長期かつ継続的に収集し、森林の持つ特性を活かして、持続的な再生の仕組みづくりができれば良いと思うとのことでした。

しかし、現実的には、林業従事者の減少、高齢化による木材搬出の難しさから、原料となる木材の確保には両発

電所ともにご苦労されている様子が伺われました。



〈グリーンエネルギー研究所にて〉

当町で計画されている発電所では、約3万トンの木材が必要とされており、ある程度の用途はたっている様子で安心していますが、工場建設にあたっては、騒音、埃、臭い等の問題をクリアし、地域住民に理解していただきたいながら、計画どおり令和6年度の完成を目指して、安心して安全な木質バイオマス発電所の建設に力を入れてほしいと思います。

また、森林環境譲与税を活用し、伐

期の過ぎた森林の間伐を進め、次世代にしっかりと繋げる森づくりに尽力してほしいと願うばかりです。

自治組織の再編について



松浦 司

鬼北町は、国土の保全・貴重な郷土文化の伝承など多面的機能を有しているとともに、多くの町民にとって大切な故郷です。現代に生きる我々は、その大切な『ふるさと』を守っていかなくてはなりません。

しかし、現在では空き家の増加、商店等の閉鎖、公共交通の利便性低下など、住民生活における問題のほか、働き口の減少や耕作放棄地の増大など産

業基盤に関する問題が特に顕著となっています。

急速な少子高齢化に伴い鬼北町全体の人口が減少している中、特に過疎化が進んでいる条件不利地域においては、いち早く人口減少が顕著で、地区によっては集落における生活の維持が困難になってきています。

そのため、過疎地域等の持続的な維持・活性化を図るには、基幹となる集落を中心とした複数の集落において「再編・統合・廃止」を検討され、圏域全体を活性化し次世代に繋げる取り組みが必要不可欠です。

愛治地区の大宿部落では、3年前より『地域の存続』について継続的に話し合いを重ねてきました。先ず、コミュニティ活動の正常化を最優先課題とし、『組再編』は不可欠との結論に達し、「再編・統合・廃止」について区長・組長が中心となり協議に入っています。

先ずは少子高齢化・著しい戸数減少が顕著である組を中心に相互の問題点を洗い出し、何度も協議を行ってきました。役場担当者のご指導もいただき

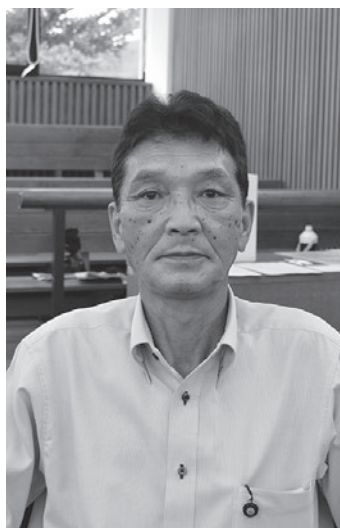
ながら組員全員参加の下、全会一致で令和4年4月1日をもって『土屋組』『久保川組』が統合することを決定し、現在の5組編成から4組となる予定です。これは始まりであり今後も継続して検討していかなくてはなりません。

種々の課題が山積する中、限界集落の生き残りをかけた取り組みに行政のご協力をいただきながら、議会も一丸となって取り組んでいきたいと思えます。



〈自治組織での会合〉

町道の整備促進について



赤松 俊二

町道には路面沈下、ヒビ、凹凸、段差、外側線消滅、法面の草、泥の路面への侵入等、様々な問題が生じていますが、人や車の安全な通行サービス機能維持の観点から、町道整備の在り方について、本町の基本的な考えを、9.月定例会で一般質問しました。

問 小規模な落石が発生し、通行に支障をきたしている町道があるが、町道改良整備に係る調査・計画を実施する考えはないか。

答 町道改良は、地元の皆様の要望等に基づき、改良が必要な路線を調査

するとともに、補助金や起債等の財源を調整しながら、事業費を中期行財政計画に計上し、計画的に測量設計および改良工事を実施している。小規模な落石等で通行に支障をきたしている箇所については、地元の皆さまのご意見を踏まえ、防災工事・局部改良工事という形で整備を進めていきたいと考えている。

問 道路パトロールは行っているのか。

答 建設課職員が道路パトロールと称して、日時・路線等を定め、計画的に調査することはしていないが、各工事現場、作業現場、立会を求められた現地等へ出向く際に、異常がないか目視で確認している。また、町内の郵便局と「地域における協力に関する協定」を締結しており、道路の異常を発見した場合は、速やかに報告をもらっている。

問 町道への樹木の越境に対する町の対応について

答 道路へ張り出した樹木の管理は、

民法、道路法等の法的な根拠から、所有者の責任において行ってもらおうが、台風・大雨等の後で通行に支障を及ぼすような緊急の場合は、建設課において伐採、撤去を行っている。

道路は産業活動や地域住民の生活基盤であるので、日常的に危険箇所の確認をしながら、特に通行に支障をきたしている法面から張り出した樹木については、伐採や撤去を行い、快適で安全なまちづくりに一層努力していただきます。今後も求めていきたいと思っております。



〈法面から張り出した樹木〉

常任委員会合同視察調査

令和3年度常任委員会合同視察調査への議員派遣について、報告いたします。

令和3年11月11日、12日の2日間、高知県四万十町・宿毛市、愛南町において視察を行いました。

近永駅よりJR予土線沿いを高知県に入り、道の駅四万十とうわ、海洋堂かっぱ館及び道の駅四万十大正並びに土佐くろしお鉄道の中村駅を視察しました。

海洋堂かっぱ館では、「河童」をテーマとする約1,300点のフィギア作品が展示されており、クオリティの高い作品が多く、鬼の造形物にも出展されている方もたくさんおられ、鬼北町とつながりを感じました。今後も観光資源としての予土線の有効性を模索していきたいと思えます。



宿毛市では、木質バイオマス発電所及び木質ペレット製造所を視察・調査しました。

地域内の森林を資源として管理・活用し、その生産性を利用することで持続的な供給を生み出そうとする木質バイオマス事業への取り組み、燃料の確保の現状、電力供給量、ボイラーの種類、メリット・デメリットなど細かい所まで詳しく説明して頂きました。木質バイオマス発電が地域の森林資源の有効活用と林業や関連産業の基盤構築及び振興に資する位置付けになれるよう、引き続き調査を継続していきたいと思えます。

愛南町では、令和元年6月よりタブレット端末を本格導入した愛南町議会を視察しました。愛媛県議会をはじめ、県内市町でもICT化が進んでおります。

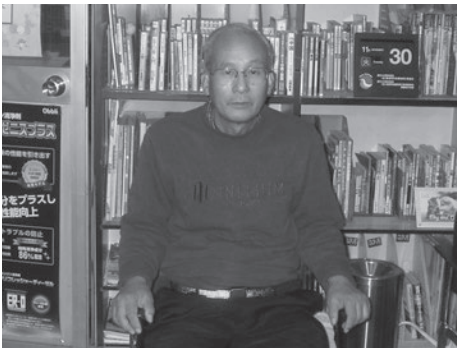
タブレット端末など情報通信端末の普及により、住民生活やさまざまな分野でICTが利用されている状況を踏まえ、将来的には情報通信端末の導入は必要であると思えます。鬼北町議会でもICT化に向け引き続きタブレット操作研修や調査をしていきたいと思えます。（高橋 聖子）



町民の声

浅野 剛志

私は近永駅前でガソリンスタンドを経営している六十八歳の男性です。東京の大学を卒業し、そのまま就職しましたが、家業を継ぐべく鬼北町に帰ってきました。若い頃はスタンド経営に一生懸命で、他のことを考える余裕もありませんでしたが、還暦を迎えたころから、やっと心にも余裕ができ、地域のことについて考えるようになり、最近では、地方行政や町づくりにも参加するようになりました。



地域の問題を考える場合、長期的視野に立って考える問題と、短期的視野に立って考える問題があると思います。今

回は後者について考えていることを少し述べたいと思います。

考えの中心は、住民あつての行政だ、ということですが。住む人がいなくなつては地域は成り立ちません。今私が関わっているのは、近永駅前の賑わいをいかにして取り戻すかということと、北高を中心とした町づくりです。北高生の多くが近永駅を利用しており、北高の活気を取り戻すことが近永に賑わいを取り戻すことになると思われ、現在、町を中心に近永駅の改築を計画しています。地域住民、北高生、行政が一つになつて、人が集まる場所をつくつていきたいと考えています。

北高は、全国的にも珍しい馬術クラブがある学校です。馬と農業を中心として、学校と地域住民が一体となり、盛り上げていければと思います。町議の皆さんも北高を訪問して、馬を見学し、校内の現状を見ていただきたいです。

次に考えるのは、予土線の活性化です。前述した問題とリンクしながらやっ

ていけば良いと思います。予土線は他の市町との関わりがあるので、鬼北町議会としても他の行政に強く働きかけ、四万十川という強いブランドを活かして、存続させていきたいと思っています。

最後になりましたが、去年からシルバー人材センターが活動を開始し、草刈りなど地域の方々のお手伝いをされていますが、責任者の方にお伺いすると、会員の方々は楽しそうに仕事をされておられ、何もせずに家にいるよりも人と会えて会話もはずみ、それにより、血圧が安定するなど体調もよくなり、また精神的にも安定しているという会員さんが多く、思わぬ相乗効果が出ているということでした。

若者だけでなくシルバーの方々が活躍されることは、町の活性化にとつても非常にいいことだと思えます。議会の方々も是非シルバー人材センターの活動を理解された上で、支えていただきたいと思えます。

鬼北町PTA連合会との 懇談会を開催しました

赤松 俊二

11月17日午後7時から鬼北町議会議場で、鬼北町PTA連合会の役員の方々と懇談会を開催しました。

この懇談会は「子どもの教育環境と議会の役割等について」をテーマに、少子化により各学校と地域の抱える問題について、PTAの役員の方々から率直な意見を聞き、鬼北町の教育環境を良くするために議会として何ができるか、どうやって地域の声を行政に届けるか検討するための懇談会でした。

まず開会にあたり、芝議長がいさつの中で「議会として皆様の意見を行政に届けたい」と懇談会の趣旨を説明し、PTAの役員の方々から様々な意見をいただきました。

PTAの役員の方々から出た主な意見は次のとおりです。

・以前、保育所の統廃合について行政から説明があったが、保護者の中には

納得していない方がいるのではないか。
・鬼北町に働く場所を確保し、若者が定着して子どもが増え、また子育てがしやすい地域環境をつくってもらいたい。

・学校統合について、地域の意見と保護者の意見にズレがある場合は、実際に関わっている保護者の意見を優先してほしい。

・生徒数の多い学校と少ない学校での学力の差に問題を感じる。

・保護者の意見で現状維持や統合については考えるのが良いのではないか。

・地域の保育所がなくなると、「次は小学校か」という話になるが、議会として存続させるために行っている活動があれば教えてほしい。

・地域で活動するスポーツ少年団では保護者の負担が大きいため、助成等をしていただきたい。また、町有バスの利用ができればありがたい。

・広見中学校の改修工事については、入札が不落札であったが、改修はできるのか。

（回答 工期満了が決まっているので、

それに必ず間に合わせるといふ町長の考えである。特に第3校舎は取り壊している状態であり、取り止めになることはあり得ない。）

PTAの役員の方々からはさまざまな意見が出され、学校や地域が抱える問題が浮き彫りになりましたが、時間とともに状況は変化するものでもあり、議会としても時流にそった状況を把握し、行政に対して適切な意見具申を行っていきたいと考えております。

今回の懇談会を契機に、今後もPTAや地域の意見を聞く機会を設け、地域とともにある議会活動を目指したいと思えます。



町有施設視察研修を終えて

坂本 一仁

10月21日に鬼北町議会で町有施設の視察研修を行いました。

まず初めに、成川溪谷休養センター、成川高月温泉、成川キャンプ場を視察しました。成川溪谷休養センターでは施設を案内していただいたところ、老朽化が激しく早急に補修工事をして、お客様に快適に使用していただけるようにしなければならないと感じました。ここは、今後リニューアルされる予定で、町内はもちろん県外からもより多くの方々に使用していただけるよう整備計画が進められています。



続いて、鬼北町農業公社を視察しました。近年、過疎化や高齢化に伴い、農村社会の活力が失われつつあり、生産活動の停滞、農用地の遊休化、粗放化、担い手不足の問題、優良農地の耕作放棄の増加が懸念されており、今後ますます鬼北町農業公社の事業が重要になると思われます。公社の主な事業は、農作業の受委託、農業の担い手育成のための研修及び支援、農業施設及び農業機械の貸付などがあり

是非とも活用していただけたら幸いです。

続いて、泉貨紙施設を視察しました。泉貨紙とは楮（こうぞ）を原料として作られる特殊な和紙のことで、泉貨紙をつくるには、水浸漬、煮熟、川さらし、ちり取り、打解、舟入れ、抄紙、压榨、板付け、天日干しなど、かなりの手間と労力が必要だと伺い、泉貨紙をつくるのは大変だなあと感じました。



続いて、鬼北きじ工房を視察しました。近年コ



ロナの影響で需要が減少しているようですが、美味で全国でも有名になり、県外に向けての出荷も多く、先日私がテレビを見ていたところ、ナインティナインの「ぐるナイ」という有名な番組の中で、鬼北町のきじ肉を使った料理が高級料亭で出されており、鬼北町のきじが全国で浸透していることを再確認しました。



続いて、道の駅日吉夢産地を視察しました。コロナの影響で客足が減少しているみたいで、早くコロナが沈静化することを願うばかりです。

続いて、節安ふれあいの森を視察しました。現在施設の営業は、5月のゴールデンウィーク、7月中旬から8月末までとなっており、そうめん流し及びうどん打ち体験は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止となっていて非常に残念です。

続いて、明星ヶ丘施設を視察しました。ここは、武左衛門一揆記念館もあり、農民たちを救った武左衛門の偉業、一揆が起こった背景などが展示紹介されており大変勉強になりました。現在も武左衛門の偉業を称え8月には「武左衛門ふる里まつり」等、イベントを行っています。地域を支える団体がこれからも継続繁栄されるよう願うとともに、活動に対して心から感謝いたします。



道の駅三角ぼうしでは、鬼王丸の効果により、宝くじ売り場が大盛況との説明でした。



最後に、鬼北総合運動公園を視察しました。空調設備等も改善され、今後ますますの利用促進が期待されます。

以上で視察は終わりましたが、町有施設は他にもたくさんありますので、他の施設にも目を配りながら、快適に利用でき、尚且つ満足していただけるように環境整備をしなければならないと思います。



議 会 活 動 報 告

令和3年1月1日～令和3年12月31日

月 日	会 議 事 項	主 な 協 議 内 容	
1	8	第1回議会運営委員会	全員協議会の開催について
		第1回全員協議会	プレミアム商品券の販売について
		広報委員会	議会だよりの編集について
	2 2	広報委員会	議会だよりの校正について
	2 9	第2回議会運営委員会	第1回臨時会の運営について
		第1回鬼北町議会臨時会	議案2件
第2回全員協議会		新型コロナウイルス感染に伴う選挙運動の対応について	
2	2 4	第3回議会運営委員会	第1回定例会の運営について
		第3回全員協議会	成川溪谷休養センター管理運営について 他
3	3	第1回鬼北町議会定例会（1日目）	議案52件、請願1件、発議1件、諮問1件
	4	第4回議会運営委員会	請願の取り扱いについて
		第1回鬼北町議会定例会（2日目）	
	8	予算常任委員会	令和3年度当初予算審議（総務産業建設部門）
	9	予算常任委員会	令和3年度当初予算審議（厚生文教部門）
	1 2	第5回議会運営委員会	第1回定例会（最終日）の運営について
		広報委員会	議会だより原稿の校正の確認について
1 9	第1回鬼北町議会定例会（最終日）		
	第4回全員協議会	第二次鬼北町長期総合計画後期基本計画書の報告について	
4	1 4	第6回議会運営委員会	全員協議会の開催について
		第5回全員協議会	新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施について
5	1 1	第2回鬼北町議会臨時会	承認6件、同意4件
	2 7	第7回議会運営委員会	第2回定例会の運営について
		第6回全員協議会	広見中学校改築工事について 他
3 1	第7回全員協議会	J R近永駅改築工事について	
6	4	第2回鬼北町議会定例会（1日目）	議案4件、発議2件
		第8回全員協議会	J R近永駅整備計画について
	9	予算常任委員会	令和3年度一般会計補正予算（第3号）審議
	1 5	第8回議会運営委員会	第2回定例会（最終日）の運営について
		第2回鬼北町議会定例会（最終日）	
第9回全員協議会	議会広報委員会について 他		
広報委員会	役員の選任 他		
7	1 6	第10回全員協議会	鬼北町職員の逮捕について
	2 1	第9回議会運営委員会	議案審議に係る資料等について
		第11回全員協議会	鬼北町保育施設再編に係る意見について 他
		広報委員会	議会だよりの掲載記事について
8	4	第12回全員協議会	近永駅舎改築工事に係る概要説明について 他
9	9	第10回議会運営委員会	第3回定例会の運営について
		第13回全員協議会	入札制度の見直しについて 他
	1 3	第14回全員協議会	鬼北町立広見中学校改築工事（空調衛生設備工事）の締結について

9	1 6	第3回鬼北町議会定例会（1日目）	承認1件、議案24件、同意1件、発議1件
	1 7	第3回鬼北町議会定例会（2日目）	
	2 2	第11回議会運営委員会	第3回定例会（最終日）の運営について
		第3回鬼北町議会定例会（最終日）	
	2 4	第15回全員協議会	鬼北町立広見中学校改築工事（空調衛生設備工事）の締結について
		第12回議会運営委員会	第3回臨時会の運営について
		第3回鬼北町議会臨時会	議案1件
	3 0	第13回議会運営委員会	第4回臨時会の運営について
		第4回鬼北町議会臨時会	議案1件
1 0	2 1	町有施設視察研修	町内施設9箇所
1 1	2	第14回議会運営委員会	第5回臨時会の運営について
		第5回鬼北町議会臨時会	議案2件
		第16回全員協議会	統合保育所の設計及び地区別説明会について 他
	1 1	常任委員会合同視察調査（～12日）	高知県四万十町・宿毛市、愛南町
	1 7	第17回全員協議会	成川溪谷施設改修について 他
	2 4	第18回全員協議会	成川溪谷施設改修について 他
	3 0	第15回議会運営委員会	第6回臨時会及び第4回定例会の運営について
第6回鬼北町議会臨時会		議案8件	
第19回全員協議会		第4回定例会の運営について 他	
1 2	9	第16回議会運営委員会	第4回定例会追加議案の取り扱いについて
		第4回鬼北町議会定例会	議案8件
		広報委員会	議会だよりの編集について
	2 0	広報委員会	議会だよりの記事の校正について

議会ICT化研修

社会全体でデジタル化の推進が求められている中、令和3年3月愛媛県・市町DX協働宣言が行われました。鬼北町議会でもICT化に取り組むべく、まずはタブレット端末の導入を計画しております。第16回全員協議会では町職員を講師にアプリ（サイドブックス）を使っての研修を行いました。議員からもネット環境、セキュリティ問題、メンテナンス等運用していく上での質問がありました。



〈愛南町長・町議会の皆様〉

していくことが運用への近道であると痛感しました。

常任委員会合同視察調査では、タブレット端末導入3年目の愛南町議会を視察させていただきました。「デジタル化1番のメリットであるペーパーレス化にはまだ至ってないが、タブレットの中は情報がきれいに整理され、いつでも確認できる状態になっており、最終的にはペーパーレスにできると思う」ということでした。まだまだIT機器を使いこなせるか、という不安はありますが、躊躇することなくどんどんチャレンジ

（高橋 聖子）



議会を傍聴 しませんか

令和3年度の鬼北町議会も、まだ新型コロナウイルスによる感染防止対策の為にアクリル板・マスクははずせませんが、町民の皆様の声を届けるべく議論をしております。令和4年もしばらくはこの状態ですが、いつもと違う議場を見にきませんか。
※ 鬼北町の定例会は3月、6月、9月、12月です。町の定時放送で日時をお知らせしていますので、町民の皆様の傍聴をお待ちしています。(ケーブルテレビでも中継放送されています。)



広報委員会
委員長 山本 博士
副委員長 高橋 聖子
委員 坂本 一仁
委員 赤松 俊二

今回の議会だよりでは、お二人の方をご紹介させていただきました。お二人とも鬼北町に想いをよせ、この町を盛り上げようと頑張っておられます。多くの町民の方々が、様々な形で鬼北町発展のために携わっていただいていることに感謝いたしますとともに、私たち議員も身を引き締め、町民の皆様のために頑張るまいります。

今後とも町民の皆様には議会活動をご理解いただくとともに、皆様の声に耳を傾け、少しでもこの議会だよりでご紹介できればと考えておりますので、皆様のもとにお伺いした際にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

広報委員長 山本 博士

編集
後記